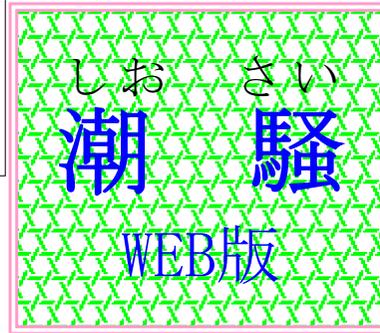




令和2年
12月27日
第40号



発行責任者
宗教法人
金光教鳥羽教会
三重県鳥羽市
鳥羽3丁目12-15
☎:0599-25-3873

師走を迎え

朝の冷え込みも、師走を迎え一段と強くなつてまいりました。

昨年の暮れには、東京オリンピックのマラソンの話題で盛り上がり、東京か札幌か？札幌でも良いじゃないか！選手たちはオリンピックに出れる事が最高の喜びだという心をお伝えしました。

しかし、この一年の間に、世界中が、コロナ禍での対策に翻弄(ほんろう)：思うがままに手玉に取られることとする社会と、状況が変貌したように感じます。

一年前は、現在のパンデミック状態を、誰一人も想像できませんでした。来年のオリンピックは果たして実現できるのでしょうか。

※コロナ対策

人を集める行動の自粛。大きな目的は二密を防ぐ事です。

だからと言いましても、人として喜び、祝つ心。今だからこそ、最大限に発揮したいものです。

友情や愛情、親族や隣人関係の大切なところ、実意な心、そして思いやり。くれぐれも見失う事のありませんよう。

また、今、この時だからこそ自みずか(こ)らを振り返り、

こんな話を紹介します。

※一つのパン

2人の人間がいて、一つのパンがあります。あなたはどの行動しますか？

「ご家庭のお子様为例を挙げてみましょう。」

兄弟関係だと、「お前は兄だから、今日は弟に先にあげなさい」「みたいにいわれのない上下関係をもち出して解決しようとしてしま

弟には、『今度お前(あなた)にあげる、良い子だから今日はお兄ちゃん(お兄さん)にあげなさい』と言うて制圧する。

思いやりの発動根拠を、序列、優先順位、差別意識による道徳心を捻(ね)じ曲げて押しつける。

誰も、望んで長男(次男、男、女)に生まれましたわけではない。その関係やめぐりあわせを犠牲にするものではありません。

『兄だから譲つてやれ』

『弟だから』
『男だから』
『女だから』
『妹だから』

そんな、自分自身で望んだわけでもない、自分の責任のない差別レベルで順序・縦割り意識を持たされたら、嫌だと思つたお

様がほとんどだと思います。子供さんの気持ちにもなりたくありません。何が道徳じゃ！と思つて、やる気もな

あらためて、コロナ禍に陥る以前の日常のありがたさに気づく、ということ(こと)を語る人が増加しています。

屁理屈を言いますと、世間(よ)に感染症でも持つてこない、と、その当たり前『ありのまま』の有り難さを感じる事が出来なかつたのか？

そつち(そ)いわれるのはちよつと寂しいです。しかし、そんな事を言われたいよう(よう)にしたいものです。

<p>くなります。</p>	<p>実際、 道徳というのは、 自分から、自分の 立場をわきまえて 自みずかぐらを自 戒するもので、 人から、人に強い られるものではな いような気もしま す。</p>	<p>先生まれの人 を大切に、女性は 人間を生みだすか ら大切。父はお金 を稼いでくれるか ら大切。母は家に いて衣食住の世話 をしてくれるから 大切。</p>	<p>を出すが、定職が なく、偉くない人の 人格は否定する。 その差別を、受け 入れる人の心に甘 えてしまっている。 そのような物の 考え方そのものが 難儀であり、 人のストレスや障 害を生み出し、家 庭や夫婦、しいては 社会の崩壊を導き 出しているのでは ないかとも感しま す。</p>	<p>側でさえも、 場合によっては、 社会の枠にはま りにくい人を見下 し、取り残してし まう仕組みが出来 ているのも、残念な がら我が国でもあ ります。</p>
<p>良し悪しは別に しまして、 従来からの日本 にはそんなところ からくる諦めの心 もあります。 差別を許容する 社会のシステムが 支えているような</p>	<p>もちろん、大切な ものは何もかも大 切なわけではありませんが、それに順列 をつける事に違和 感が生まれてしま います。</p>	<p>驚くべき現代の科 学技術の進歩の裏</p>	<p>老人は可哀そう だから、障害を持 って</p>	
<p>つ人は優先。貧乏 な人は可哀そう。 家のない人は可哀 そう。</p>	<p>偉い人にはお茶</p>	<p>学技術の進歩の裏</p>	<p>老人は可哀そう だから、障害を持 って</p>	

<p>そんな、原点とし て人を見下すこと から改まりを促 すという仕組みが あるような気がし てなりません。 優しや、可哀そう と思う心は神心で ありますが、 そこで終わってし まうては、神心だけ で、神行動には結 び付きません。</p>	<p>で物事を考えよう としますと、 差別意識により、 上下関係をはつき り意識しなければ 行動できない。 ある時は弱い人 にだけ親切にする という偏(かたよ) りも生まれます。</p>	<p>事を見ると、当た り前のように出て くる発想ですが、 これは、 人を育てる上での 教育上は、あまり 好ましくないやり 方だとも感じます。</p>	<p>決させます。 幸せになるのは お金が要る。 お金がなければ 幸せとは言えない。 お金があるのだ から、お金を出せ ばいくらでも買え る。パンペーパで悩 む必要は無い、買 ってくれば良いとい うわけです。</p>
<p>裏を返せば、 同じ枠にはまら ないかどうかだけ</p>	<p>※経済中心の心 そうかというて、 パンが一個しか なければ、もう一 個買ってくれば良 いと思心。</p>	<p>お金や物があつて、 何事も自由になり 不便のないのがあ りまえ、と言う ところから物を見 ていますと、『あつて当たり前』 として物事を考え ますから、 目の前のことは、 たいいていお金で解</p>	<p>しかし、 お金と物を交換 して満足感を得て いるだけでは、 ギブアンドテイク の打算的な考えが 生まれ、どこかに 心の空洞が生まれ</p>

て、空虚と言いますか、虚しくも感じます。お金が、人の心の神心を発動するチャンス奪ってしまい、そのような生活が続くと、神心に気付く感性（神経伝達系統の物質が少しずつ弱くなり、いずれば消滅してしまっ。）

いずれば、無信心、無宗教の行動だけになってしまいます。

もちろん、すべてがお金や資本主義

の経済が悪者というわけではありません。人が共に助け合い、生きている事も、物も人も、お金も時間も粗末にしない、あちゆる物の見方の中に、温かく心の触れ合う生き方を心がけたいものです。

※宗教心

十年ほど前の静岡県でのお話です。ある小学校で、相合い傘を禁止しました。

なぜ『相合い傘禁止』なのでしょか。ある生徒が、雨の日にまぶぬれになりそうな友達を想い、相合い傘で、共に体の半分を濡れながら、仲良く家に送ってあげました。

やさしいですね。思いやり、神心を発動する。いわゆる道の徳。

そんなお子様をお育てになった親、あつぱれと思いきや、その親は、学校に怒鳴りこんで、クレーム（文句）をつけました。

『うちの子には、きちつと天気予報も調べさせ、傘を持たせることも自主的に考えるように指導している。途中から降りそうなきにはちゃんと傘を持っていくか確認までしている。』

それなのに、まぶぬれで帰ってきた。傘を持たない友達を助けたというじゃないか。どうして、うちの子が犠牲にならないの

か？ 風邪でも引いたらどうしてくれるのか？ 傘を持たせない親の責任ではないか！』と、学校に詰め寄ったそうです。

我が事の事はかりが大きく考えてしまつと、傘を持っていない子を、良いとか悪いとか決め付けてしまっ。

なぜ、この親は学校の責任を問うのでしょか？

組織を責め、責める我が身の罪の意識を軽くしたかつたのかとも感じます。慈愛を否定し、いわれない世間を責める自分中心の鬼心を、世間に現してしまつたようにも感じます。

これが、子に見せる親の姿なのでしょか？

我が事、自分を守る事を中心に大きく見せ、組織や人や他の事を否定し責める。

子は、いくら自分を褒めて貰ったとしても、そのような親の姿を見れば、次の機会には、同じ行動をためります。

自分の出来ることを人にしてあげようとする大切な心、そんな幸福を見つける勘所や方法を見失ってしまわないか？

自分の行動が、親を怒らせて、社会と対立する。そう感じる事で、自分の優しさを入の

葛藤が生まれるのでしょか。

もし、親の事を信賴し受け入れる素直で従順な子だったら、その子が親になつたときに、やはり学校に文句を言うに行く事になるのではなからうかと感じてしまいま

や、それで、学校側も学校側ですが、さすがに、すべての生徒の家庭に負担をかける事でもあり、お金

<p>できるエネルギーも生まれません。自分にも、人にも良いエネルギーを与えることもできません。生かされていて、生きていければこそ、見つけることができます。</p>	<p>斜陽になつたといえ、私達の住む日本は、依然世界屈指の経済大国。思いやりも、清潔感も住みやすさも世界のトップクラスです。しかし、日本人の自殺率は世界第6</p>
<p>位(2017年現在)。近年は、社会環境の不安に加え、「コロナ鬱(うつ)」や、自宅で過ごす時間が長くなつた事による家庭内での心の摩擦も増加しているようです。</p>	<p>「閉塞感」や「ギスギス空気」が、多くの人々に生き辛さを感じさせ、失敗したら袋叩きにされ、足の引張り合いが続ぎ、ネットやSNSの世界中でも、言葉や文字での袋叩き、誹謗</p>
<p>中傷。自分の人生と無関係であろう人間に干渉(かんじょう)して攻撃する人が多いのは悲しい。</p>	<p>「自分の思うがままに、人や物事を何とかしたい」という心の動きが見え隠れしているようにも感じます。</p>
<p>自分の価値観を強く他人に押し付けようとする心は『過干渉』です。他人のやることに口出して安心したい。そして、人が失敗すると、内心でホソと安心する。『そろみたことか』『だから言たじやないか』などと、人を否定して、自分は安心したい。他人が成長したり、成功することを心の底で望んでいない。</p>	<p>『自分が諦めたことは、他人にやつて</p>

<p>欲しくない』自分がつけた『折り合い、あきらめ』を、人にだけは打ち破つてほしくない。そんな、ある意味ちうぼけな心。そのような心を、『心の器が小さい』と言います。</p>	<p>状態ですと、人や社会を受け入れる事が出来ません。そんな時は、自分自身さえ、しっかり見据え、受け入れる事は出来なものです。</p>
<p>『過干渉』「こわ」そが、自分の思うがままに、人を何とかしたいという心が引き起(こ)す禍(わざ)わいのスイッチではないかと感じます。</p>	<p>自分自身の禍のスイッチを切つておくことは出来ても、あらゆる社会の間での、人の関(か)わりは避ける事が出来ません。人の良いところはなかなか伝えようとはせず、悪い事は、超高速で伝わるように、</p>
<p>「この世の中の仕組みもありません。しかし、人の背中を押し、崖から突き落とすような言動や行動。実際、そのように人を蹴落(こ)すと感覚を伝達する事は、自分自身の価値をあげる事には結び付きません。</p>	<p>ぎずぎずとした、心のしこりが残るだけではありません。『こわ』で、閉塞感を生み出す「正体」ではないでしようか。</p>
<p>時と場合により、過干渉は、人を閉塞感に追い込み自殺や逃避の原因にもなり得ます。社会のお役に立つという事は、禍(わざ)わいの伝達を絶たなければならぬということではないでしょうか。</p>	<p>ではどうすれば良いのでしょうか? 「自分の人生を自由に、前向きに生きたい」と書き添えているのであれば、いった『心の器が小</p>

<p>『さい』人に近付かないこと。 敏感に感じ取り、全力で、その人から離れることをお勧めします。 SNSの意見も、立ち入りも反論もしない事。 引っ張られそうなのは上手くあしらう。 そうすれば、伝達は途切れ、増幅(情報)が伝達するときに、少しずつ大きく変化していき(さい)は鎮まります。</p>	<p>ける。それは戦いに呼び込もうとする(畏)わな、圧力ではないかと感じます。 毒舌に毒舌を返すと、泥沼にはまり、繰り返す間にごんごん大きく膨らんで増幅するものです。 噂は噂を呼び、嘘は嘘で固めたくなくなるのが人情、人間心です。 さいで、金光教祖のお言葉であります、</p>	<p>教典の神訓25に『うち向かう者は負けて、時節に任せてありませよ』とあります。 諦めるのではなく、そういった人達の干渉や口出しは一切気にせず、悪口も言わず、うち向かう物はどこにいても在るものだと思ひ、ありのままをしっかりと受け入れ、否定せず抵抗せず受け止めて、その改まりを祈り、時節を待て、さいに風を理解します。</p>	<p>ある人が面白い事を言っています。 人間には、2つの種類がある。 「エネルギーを人に与えるか、人のエネルギーを奪うか」 私は、個人的に、いつもエネルギーを与える人であり続けたいと考えています。それは、めぐりめぐって、自分の子や子孫に還ってくるように出てきます。 『めぐりめぐって』とも言います。 奪えば返さなければ</p>
--	--	---	--

<p>ばなりませんし、与えれば返さなくなるものです。 良い事をすると、幸福が、悪事をすると、苦勞や辛い事が、いずれ自分や、子や子孫にめぐりめぐって帰って来る事を言います。 また、私たちは、人の難儀の原因を、人の性格や態度、知能といった内面に決め付け、和賀心で受け止めず、改まりを求め、一方で、</p>	<p>さいと許し、甘えらるる『悪くせ』があります。そういったわがごとく、『悪くせ』は我欲によりものかとかかります。 しかし、金光教では、欲、そのもの存在を必ずしも否定するものではありません。欲、我欲を感じさせて頂ける事に礼を申し、気付き、詫び改まる事の出来る道が大切です。</p>	<p>令和二年度末、二十五日迄には、皆さんの信奉者の方々の、単独のさいに素直に見つめ、受け入れ、改まり、争いを避け、世のため、人の、社会の為に役に立つエネルギーとして、使わせて頂きますように。 我がままに甘えさせて頂いたら、それをいすれ人にお返ししなければと思つ心が神心だと思ひます。 ※最後に</p>	<p>自家用男タクシーで、大変な苦勞をかけて、ご参拝になるという事態ではありませんが、口頃、お顔を見るのも出来ない方々と、楽しく、嬉しいひと時を過ごさせて頂きました。 誠に有り難ございます。 また、明年も、元氣なお姿を拝見させていただきます。 皆様のお幸せを祈</p>
--	---	---	---

さあ 年末年始 教会参拝
 本年のお礼、お詫び、そして来年に向け、
 末永く続く私たちの命、めぐり合わせを受けさ
 せて頂く願いを持ち、共々に新たな願いで、
 祭典に、御用にお使いいただきましょう！

《年末年始の予定》

年末感謝祭

十二月二十日

十二時三〇分

元旦祭

一月一日

十二時三〇分

親教会新年参拝

月例祭 一月三日

新年祭 一月十七日

金光教 鳥羽教会
 教会報『潮騒 WEB版』第40号
 発行 令和2年 12月27日
 発行責任者 野呂教行

り、子孫に、未来に、
 永遠に、和賀心のバ
 トンタッチが出来
 ますよう、
 そしてコロナ禍を
 忘れ、笑顔でお会い
 出来る日が来る事
 を、心より楽しみに
 しています。
 潮騒を通じて、
 何か一つ、皆さま
 の心のとぎめくお
 手伝いが出来れば
 と感じます。
 最後までお読みい
 ただき、誠に有り
 難うございました。
 それでは、年末年
 始を迎え、来年も
 共々に一層(いつそ
 う)の神人(かみひ

この道を求め、願
 い、祈り、
 おかげを受けさせ
 て頂きましょう。

以上